



Tokyo Tech

R2年度の授業及び修士論文研究 における教育の質について

令和3年7月30日
東京工業大学
副学院長等教育会議

教育革新センター

2020年度の授業形態の状況

時期	授業	授業形式	主な成績評価形式
1Q-2Q	講義, 演習	オンライン	小テスト, 課題, オンライン試験
夏季	実験, 演習, 実習など	対面	課題
3Q-4Q	理工系教養科目(100番台)	オンライン	小テスト, 課題, オンライン試験, 対面試験
	上記以外の講義, 演習	オンライン	小テスト, 課題, オンライン試験
	実験, 演習, 実習など	対面	課題

理工系教養科目

理工系教養科目 100番台 3-4Q
4科目

実施時期	授業形態	主な成績評価形式
2017-2019年度3-4Q	対面	小テストand/or対面の期末試験
2020年度3-4Q	オンライン	小テストand/or対面の期末試験



※学修時間は2018年度以前と以降で若干、計算が変更



英語科目 100番台～400番台 219-293クラス

実施時期	授業形態	主な成績評価形式
2017～2019年度	対面	小テスト, 課題and/or 期末試験
2020年度	オンライン	小テスト, 課題and/or オンライン試験



※学修時間は2018年度以前
と以降で若干、計算が変更



文系教養科目

文系教養科目 100番台～600番台
199-251クラス

実施時期	授業形態	主な成績評価形式
2017～2019年度	対面	小テストand/orレポート
2020年度	オンライン	小テストand/orレポート



※学修時間は2018年度以前
と以降で若干、計算が変更



授業学修アンケートと成績

※2020年度はオンライン授業のみ抜粋、成績の方法も2019年度までと異なる
 ※学修時間は2018年度以前と以降で若干、計算が変更



100番台

授業学修アンケート 470~590クラス

成績



200番台

授業学修アンケート 510~670クラス

成績



300番台

授業学修アンケート 380~440クラス

成績



授業学修アンケートと成績

※2020年度はオンライン授業のみ抜粋、成績の方法も2019年度までと異なる
 ただし、これまで期末試験は約13%
 ※学修時間は2018年度以前と以降で若干、計算が変更

400番台

授業学修アンケート 520~620クラス



成績



500番台

授業学修アンケート 180~250クラス



成績



600番台

授業学修アンケート 30~70クラス



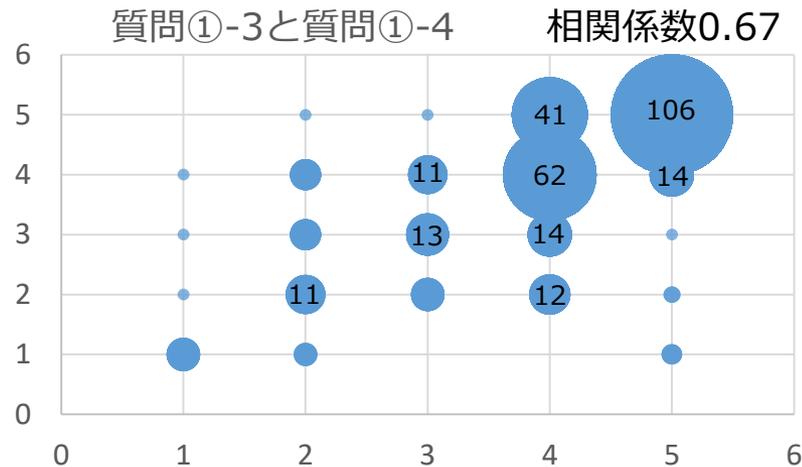
成績



修士論文研究等の研究指導状況について

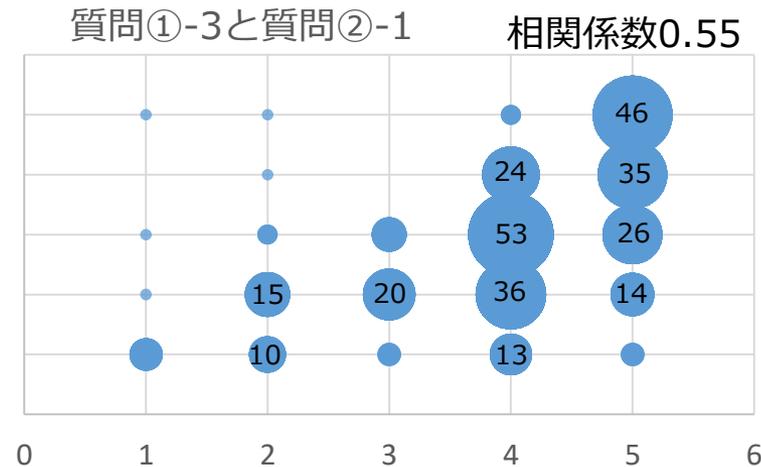
教員734名中315名回答

自信をもって2020年度修了生を送り出した



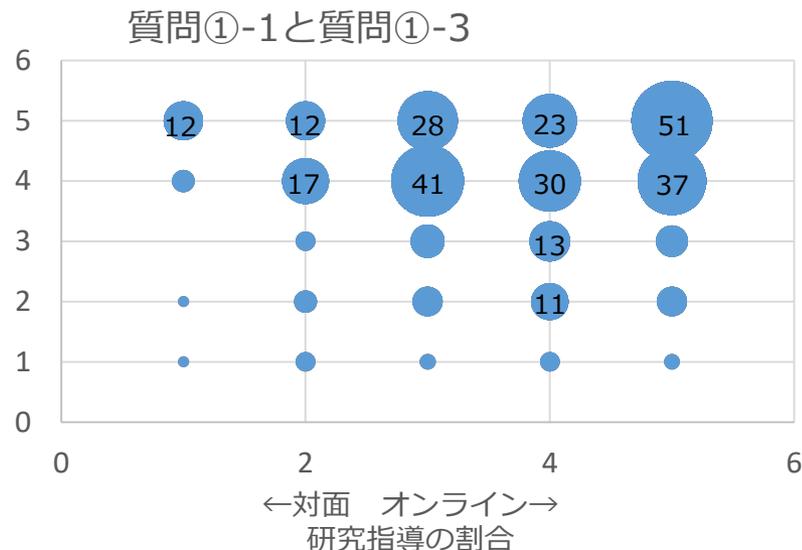
「修士論文研究」を通じた研究指導は機能した
70%が研究指導が機能し、かつ、自信をもって送り出した

例年と比して指導を十分に行えた



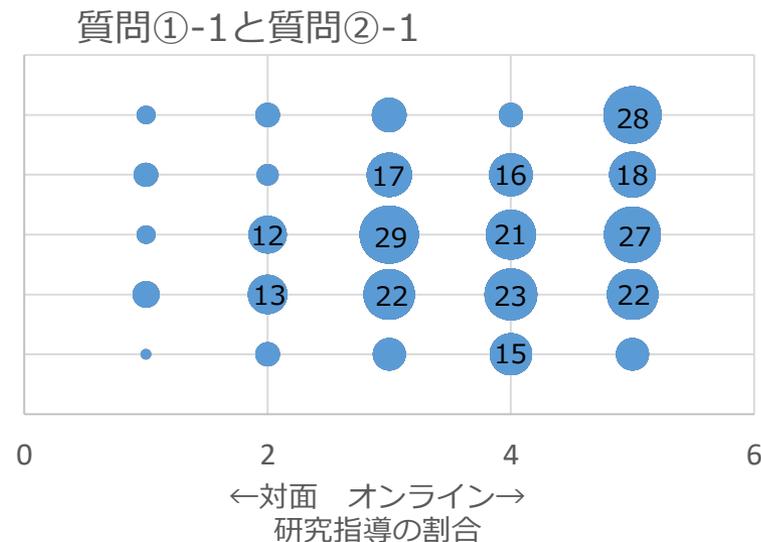
「修士論文研究」を通じた研究指導は機能した
指導は機能したが、例年より指導が十分ではないと回答した教員がいる

「修士論文研究」を通じた研究指導は機能した



指導が機能したと回答した教員は対面もオンラインもいる
指導が機能しないと回答した教員はオンライン若干多い

例年と比して指導を十分に行えた



例年より指導が十分ではない教員は対面もオンラインもいる

2020年度の学修状況のまとめ

- 学士課程：100番台～300番台の傾向
 - 理解度や興味・関心は向上
 - 学修時間が増加
 - 成績は向上（しかし対面試験からレポート試験による影響もある）
 - 不合格者数は減少
- 大学院課程：400番台～600番台の傾向
 - 理解度や興味・関心は向上
 - 学修時間はやや増加
 - 400,500番台の成績はやや上がっている
(2019年度のほとんどの成績評価は期末試験以外)
 - 不合格者数はやや減少
- 修士論文研究
 - 約70%が研究指導は機能し、自信をもって送り出せたと回答
 - 研究指導は機能したが、例年と比べると十分とは言えない傾向がある
 - 研究指導が機能したと回答した教員は、オンラインも対面も同じ

学修状況から見る教育の質の考察

・教育の質に関する総括

- ・授業の評価方法が一部違うので厳密には比較できないが、教員の丁寧な授業準備によって学生の授業理解度や興味・関心が高まり、また学修の頑張り（学修時間の増加）にもつながり、「ほぼすべての学生がシラバスに沿った合格レベルを超えている」という結果が得られた。

⇒教員アンケートの自由記述欄から事例

- ・毎回授業の感想を提出、その際に、匿名で全員の感想・意見が見える化
- ・質問やコメントにすべて応答
- ・ほぼ完全な講義ノートを事前に学生に配布
- ・毎回提出課題を採点し、正解に到達するまで一人一人の学生とやり取り、コロナ以前よりきめ細かい教育
- ・修士論文研究指導に対しては、例年と比較すると十分とは言えないのは致し方ないが、「自信をもって送り出せた」レベルに到達

・今後の方針

- ・2020年度に良かったものを抽出して、2022年度以降の新しい教育の在り方の検討に活かす
- ・その一つとして、教育改革シンポジウムでは、通常の授業の中で「そもそも良い授業とは？」をテーマに考える機会を設定する